

第45回 全日本中学生ホッケー選手権大会 確認事項《チーム用》

TD：瀧上 正志 中学校部会事務局長：馬場 治男



◆ベンチ

1. ベンチには今大会に「選手」「スタッフ(監督・コーチ)」として登録し、日本ホッケー協会に選手または役員として登録した者が入ることができる。

なお、「選手」「スタッフ(監督・コーチ)」は、別紙(第46回全日本中学生ホッケー選手権大会における「登録証」の活用について)に定めるとおり、『登録証』を持参してベンチ入りすること。

2. 「手当者」について

- ・原則パンフレットに記載されている者 2名
- ・成人であること
- ・「手当者」の変更は、例年通り、スターティングリストにおいて変更を認める。(二重線——で訂正)
- ・「手当者」には、実行委員会より配布される、『手当者用IDカード』(各チーム2名分)を持参すること。
- ・今年度は、「手当者」については『登録証』を持参していなくてもよい。(今後は登録を要する方向..)

3. ベンチには、パンフレットに記載された者とTDが認めた者*が入ることを許可する。

*:「校長」「メンバーに入れなかった同性の3年生(体操服などユニホーム以外のそろいのシャツを着る)」等を認める。

4. ベンチは対戦表の先(左側)のチームが、ジャッジ席から見て左側(赤色のリボン)に入る。

◆事前練習

・アップコートは、①「羽後高校ホッケー場(クレー)」もしくは、②隣接する「芝生広場」とする。なお、①「羽後高校ホッケー場」では、ボールの使用(シュート練習も含め)が可能ですが、事故防止については各チームの責任でマナーを守って行うこと。また、②「芝生広場」については、ボールの使用は一切禁止、ランニングや体操までとする。いずれのアップ場についても、試合時間の近いチームが優先的に使えるよう、友好的な配慮をお願いしたい。

・競技会場内は、スペースの都合ウォーミングアップはできません。

・試合場での、試合開始前の事前練習については 30 分前から認める。

**ただし、競技役員の指示に従うことを条件とする。また、2 試合目以降についても認めるが、試合開始前の集いに遅れないことを条件とする。(実際には 2 試合目以降の練習実施は難しい)*

◆メンバーチェック等

1. スターティングリストは、下記①②、どちらかの方法で試合開始30分前までに提出する。

①ホッケーネットシステムにより、先発メンバー等、必要事項を入力し送信する。

②紙ベースのスターティングリスト(従来通りのもの)を、各コートのジャッジテントに提出する。

**チームユニフォームが重複した場合、友好的な解決をお願いしたい！*

**スターティングリストの間違いは、監督会議直後に訂正受付をします(以降は認めません)。*

**時間厳守をお願いします。遅れるチームがあると、公式記録用紙が作成できず、時間通りに試合が開始できません！*

2. 各チームは、試合開始15分前に次試合テントに待機していること。なお、各チームの監督は、メンバーチェックの前に、下記の点について確認・協力をお願いしたい。

・『登録証』(個別に持参/顔写真の添付)を用いてメンバーチェックを実施する

・選手の健康状況(明らかに熱中症...? ⇒TOの判断で、試合に参加させられない場合もある)

・ヘアピン、腕時計等、アクセサリーや金属の装着不可

・「スティックチェック」...規格およびスティックの破損はないか？

**穴・破片が飛び散る可能性があるものは使用を控えてもらう場合もある！*

**最初の試合前に、リングパス及びスティックの破損状況など慎重にチェックする。チェックをクリアしたス*

ティックには、大会事務局が用意した印(シール)を添付する。《今大会の確認済みシール》
複数のスティックを使用する選手は、その全てについて、ここでチェックを受けること。
2試合目以降は、今大会の確認済みシールの確認のみを行う。

・GKのアンダーパットの装備

・「マウスガード」の装着

*メンバーチェック時に確認あり。「未着用届」が提出されている選手については、着用を免除。

・アンダーウェアは着用しない。

3.PC時に使用する「マスク」「グローブ」も、このタイミングでTOの確認を受ける。

◆試合開始時・終了時のセレモニー

《開始時》試合開始 1 分前に

「ジャッジ席前整列」～「トス」～「ジャッジあいさつ」～「コートへ散る」

《終了時》「センターであいさつ」～「握手」～「わかれ」

※時間短縮のため、ジャッジテント・相手チームへのあいさつは行なわなくてもよい。

※監督は、公式記録用紙のサインを速やかに行う。スムーズな競技進行協力を！

◆競技中

1. 試合時間は、前後半各15分で5分の休憩。休憩4分でホーン、5分で後半開始。

(4分間はしっかりテントで休憩を取ること／ホーンが鳴ったら速やかに準備を)

2. 全ての試合において延長戦はなし。決勝トーナメントについては、即SO戦を実施する。

3. PC時のフェイスマスクは、ゲームが途切れた時にゴール裏に置くよう指導を。

4. フリーヒット時はボールをしっかり止める。セルフで始める時はポイントの確認・ボールを止める動作をはっきり行う。

5. リバースプレーについては、危険か否かによる判断でジャッジする。(安全第一)

6. 6人制ルールの確認 (小・中学生・6人制ルール)

● コーナー、攻撃側の波線内の FH およびコーナー付近のサイドラインからの FH 再開位置について昨年度(H27)より更あり。…破線内の FH 再開はそのポイントから。

LC については12mから⇒16m仮想ライン上からに変更。

○ PC 時におけるフライング(攻撃側・守備側)およびフェイントについては、罰則としてセンターラインに戻すルールが採用される。

○退場(黄色カード)は3分以上。(時間の計測アンパイア)

○グリーンカードは警告のみ(退場はなし)

● ハイスティック規則を廃止する。

△給水タイムの採用なし。

※上記●については H28.4.27 6人制レギュレーション変更について通達による

◆選手交代

* 選手の交代は、ジャッジテント前中央付近の(ラインで明記)で行うが、交代する選手がコート外に出た後に新たな選手が入ること。

なお、今大会では、選手交代の際に使う「交代カード」の準備はない。

◆ベンチワーク

* ベンチでの指導は、「監督」または「コーチ」のどちらか一人とする。

なお、今大会では、コーチングエリア(バルコニー／ラインで明記)を設けるので、立ち上がっての指導は、バルコニー

を活用すること。

- *アンパイアに暴言を吐いたり、セルフ判定によりゲームを混乱させる行為などは厳しく対応する。
TOからカードにより、ベンチから退場もあり得る。
特に指導の必要な監督には、TDおよび中学校部会に対応する。

◆SO戦(予選リーグの順位決定)

- *予選リーグの順位をSOで決めなければならない時は、最終試合が早く終わったコートにて順位決定のためのSO戦を実施する。なお、詳細については、放送により連絡する。
…SO戦時に残っていないチームは「不戦敗」となる。

◆決勝トーナメントの組合せについて

- * H27 年度より、決勝トーナメントの組合せは、予選リーグ終了後に抽選会を実施する。
 - ・時刻:予選リーグ終了後 (17:00頃を予定)
 - ・場所:秋田県羽後町多目的運動広場管理棟
- * 決勝トーナメントに進出する全チームの監督 or コーチまたはそれに代わる代表者(成人)が抽選会に参加すること。… H26 第 2 回常任委員会での決定事項
- * 決勝トーナメント1回戦は、予選リーグ1位チームと2位チームが対戦する組合せとする。
- * この時、簡単なTDおよび大会事務局からの「伝達・打合せ会議」も併せて実施する。

◆負傷・事故発生時の対応について

- * 負傷により手当要請をした場合、2分間以上ベンチで静養する。(GKは除く) ⇨ジャッジ席で計測
- * 顔・頭部・心臓付近の負傷については、本人の意思に関係なく、安全確認のため一旦ベンチに下げること。
- * GKが負傷した場合
 - ・GKなしのゲームは認めない。
 - ・控えのGKがいなく、フィールドプレイヤーが防具を着装すること。
- * 救護所(室)
 - ・救護所は会場に隣接して設置。(看護師 3 人+保健士 1 人が常駐)
 - ・また、重大事故発生時には、救急対応する。
 - ・AEDを会場に設置する。
- * 負傷・事故報告書(ジャッジ席に配備)
救急車で搬送された場合、熱中症等で倒れるなど医師の診断を受けるような事故が発生した場合には「負傷事故報告」の提出が義務づけられている。
 1. TOが監督に負傷事故報告書を渡す
 2. 医師等の診断
 3. 事故報告・経過報告・医師の意見を記入
 4. 記入された用紙をTOに渡す。→TD
 5. 試合が翌日の場合は、翌日にTOに用紙を渡し、経過説明。
 6. スターティングリスト提出時に、本人の健康確認をTOまたはTDが行う。

事故と同一日に次の試合がある場合、無診察(素人判断のみ)での試合出場は認められない。
⇒【別紙】に従い安全第一の対応をお願いしたい。

◆その他

- * カメラマン(卒業アルバム等作成のためのチーム随行者カメラマン)について
 - ・カメラマンが随行者しているチームの確認 ⇒ この場(監督会議の場)で申告をする。

- 必ず「受付」を通り、撮影できる場所の指示に従うこと。
- ジャッジ席および両チームのベンチの間を除く、防球ネットの外側から撮影する。(詳細は受付時に説明)
…ケガは撮影者の自己責任でお願いしたい。アンパイアーの指示には必ず従うこと。
- 試合開始のあいさつ時のみベンチ周辺での撮影も許可する。

*ベンチ内での撮影について

- ベンチに入ることが許される者が、ベンチ内(テント内)で、競技に支障を与えることなく撮影することは許可するが(カメラ・ビデオともOK)、ジャッジ席からの指示には速やかに従うこと。

大会期間中、何かありましたら、
下記TD連絡先にご連絡ください。

TD(トーナメントディレクター)
瀧上 正志 090-8980-6112

「負傷・事故報告書」の取り扱いと負傷者の試合続行に関する留意点

- ＊「負傷・事故報告書」の提出を要する事故とは
- ・救急車により搬送されるような事故
 - ・首から上の負傷は特に慎重に
 - ・出血を伴うような裂傷など、感染症の予防が必要と判断された場合
 - ・骨折など

負傷者の出たチーム (負傷者の監督)	負傷が発生したゲームTO 《負傷時TO》	負傷者の次試合のゲームを 担当するTO 《次試合TO》
=ゲームの終了= ②当該ゲームのTOから「負傷・事故報告書」を受け取る 医師の診断を受ける 「負傷・事故報告書」には、医師の診断内容等を正確に記入し《負傷時TO》もしくは《次試合TO》に提出する。 ・医師が試合続行が可能と診断した場合のみ、当日の試合に出場することができる。 ・医師の診断により続行不可となった場合、本人・監督等の希望があっても当日の試合に出場することは認めない。	①「負傷・事故報告書」の準備 事故報告 ②ゲーム終了後に、負傷者の出たチームの監督に「負傷・事故報告書」の提出を求める。 事故報告 ③負傷者の出たチームの次試合が本日中にある場合《次試合TO》に負傷者が出た旨を伝達する。 → ④負傷したチームから、「負傷・事故報告書」が届けられた場合、負傷の様子を確認後《次試合TO》に参加の可否を伝える。 事故報告	③担当試合に、前試合で負傷した選手が居ることを把握する ⑤負傷した選手の居るチームの試合開始前に、当該選手の参加について確認する。 参加する場合は「負傷・事故報告書」の提出を求め、負傷の様子を確認後、正式に参加できるか判断する。 事故報告
負傷後（当日2試合目）のゲーム		
	⑦競技役員ミーティングにて事故の詳細について報告する。 ⑧「負傷・事故報告書」にサインしTDに提出する。 事故報告	⑥受け取った「負傷・事故報告書」は、当日、ミーティング前に《負傷時TO》に引き継ぐ。